

東北福祉大学における私立大学等改革総合支援事業を契機とした取組と成果

東北福祉大学における福祉の展開

凡ての人びとの幸せをめざす

- 1875年 宮城県曹洞宗専門学校創立
- 1951年 学校法人梅檀学園
- 1962年 東北福祉大学開学 **社会福祉**学部
- 1976年 東北福祉大学**大学院**開学
- 2000年 社会福祉学部を**総合福祉**学部に改称
- 2002年 通信教育部設置 (**社会人教育**)
- 2006年 **子ども**科学部・**健康**科学部開設
- 2008年 総合**マネジメント**学部開設
- 2015年 子ども科学部を**教育**学部へ改編
大学院教育学研究科設置

本学の教育改革・質的転換の取組の歩み

- 1993年 ボランティア活動の単位化
- 1998年 人間基礎論 (初年次教育ゼミ)
- 2001年 FD委員会設置 (教育力向上の推進)
- 2010年 地域共創に取り組む方針の表明
- 2011年 人間基礎論をリエゾンゼミに改編
(高大接続強化、PBL、初年次キャリア教育、Webテキスト公開)
教員・職員・ピアメンターの3人
担任制(教職協働、学生アシスタント)
- 2011年 全学年ゼミ担任制(少人数学生支援)
- 2013年 教育開発・連携支援室設置
(教育の質的転換の推進の担当部署)
- 2013年 Web学修ポートフォリオの導入
- 2014年 アセスメント・ポリシー策定
- 2015年 IRセンター設置(教育情報分析では、心理学教員中心の調査チーム編制)
- 2016年 LMSの導入(eラーニング、双方向)



東北福祉大学概要

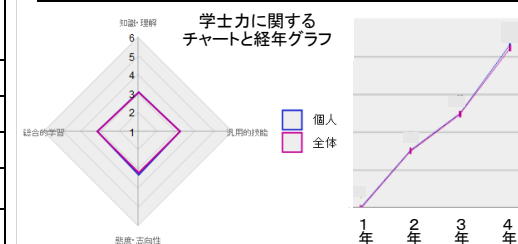
大学名	東北福祉大学 Tohoku Fukushi University	
設置者	学校法人梅檀学園	
開設	1962年4月1日	
所在地	宮城県仙台市青葉区国見1丁目8番1号 TEL: 022-233-3111	
学部 学科	総合福祉学部 総合マネジメント学部 教育学部 健康科学部 通信教育部	社会福祉学科 福祉行政学科 福祉心理学科 産業福祉マネジメント学科 情報福祉マネジメント学科 教育学科 保健看護学科 リハビリテーショ ン学科 医療経営管理学科 社会福祉学科 福祉心理学科
大学院 研究科 専攻	総合福祉学 研究科 教育学研究科 通信制 総合 福祉学研究科	社会福祉学専攻 (修士・博士) 福祉心理学専攻 (修士) 教育学専攻 (修士) 社会福祉学専攻 (修士) 福祉心理学専攻 (修士)
学位	各学科に対応した学士(学科単位の学位)	
建学の精神 教育の理念 教育研究上の 目的	本学の 建学の精神 である「 行学一如 」と、 教育の理念 である「 自利・利他円満 」に則り、広く学術理論と応用を教授・研究して、 高潔な人格と豊かな教養 を養い、 人類の幸福の追求と国際社会並びに地域社会の発展に貢献できる人材育成 を目的とする。	
キャリア教育の目標	自らかかわる、自ら考え気づく、自らアクションを起こす (主体性、課題発見力、実行力)	
感性教育施設	美術工芸館、音楽堂、茶室、自然体験学習の校地、予防福祉健康増進室、感性福祉研究所など	
実習施設	附属の病院・支援室・相談室、関連施設など	
入学定員	通学の学部合計 1,300名、通信教育部 800名	
収容定員	通学の学部合計 5,000名、通信教育部 3,200名	
入学者数	通学の学部合計 1,510名、通信教育部 417名	
収容者数	通学の学部合計 5,750名、通信教育部 2,729名	

改革総合支援事業選定状況

2013年度	タイプ1 教育の質的転換 タイプ2 地域発展 タイプ3 多様な連携
2014年度	タイプ1 教育の質的転換 タイプ2 地域発展 タイプ3 産業界・他大学等連携
2015年度	タイプ1 教育の質的転換 タイプ2 地域発展
2016年度	タイプ1 教育の質的転換 タイプ2 地域発展 タイプ4 グローバル化
2017年度	タイプ1 教育の質的転換 タイプ2 地域発展

教育研究活性化設備整備事業採択状況

2012年度	実践実学リエゾン型学修ポートフォリオ機能の情報基盤整備 (下図参照)
2013年度	地域で活躍するグローバル人材を養成する アクティブな学習環境 の整備
2014年度	アクティブラーニング施設 のための利用状況把握システム等の整備 地域課題解決に資する健康プログラム開発のための測定機器等の整備
2015年度	統合型 学修支援・管理システム の整備



教育の質的転換を契機とする取組

① 3つのポリシーを踏まえた取組の点検評価を行う際の、学外の参画を得た客観的な視点の取り入れ

以下は外部評価の抜粋である。外部評価によって**強みを確認**すると共に**新たな視点**が得られた。それを踏まえて、これまでのポリシーに照らした取組及びポリシーそのものの修正に取り組んだ。

【総括的意見】

総合マネジメント学部は、国内の少子高齢化の進展、グローバル化に伴う企業環境の変化、ICT、AI等に象徴される情報技術の高度化という**時代局面を先見的にとらえ**、福祉の視点から教育、人材育成にアプローチした**モデル的な学部**と言えるだろう。…目指すべき教育、人材育成の方向性を、それぞれに**社会ニーズと重ねて明確化**しており、大変分かりやすい。

【ディプロマ・ポリシーについて】

ディプロマ・ポリシーでは、…より先頭に立つリーダーシップとして、**創造力、交渉力、協調力**を求めているだろうか。産業福祉分野には様々なところに**ニッチビジネスの可能性**があり（例えば、福祉ビジネスなど）、**起業家育成も視野**にいとると、こうした能力も不可欠だろう。

② 授業評価の結果の活用

全授業対象で授業内に Web 実施。結果は全学生に公開。平均値は一般公開。なお、**授業のシラバス、予習・復習・課題の時間、学修成果に関する設問**も含む。

1) 評価の高い教員の顕彰と FD における模擬授業担当

評価の高い教員をベストティーチャー、グッドティーチャーとして顕彰。ベストティーチャーは**模擬授業**を担当。アクティブラーニングの実際を共有する。

2) 評価の低い教員への助言指導と改善の目標・計画

評価の低い教員は、**助言指導**を受けた上で、教員個人の自己点検評価シートに**改善の目標・計画**を記入する。

3) 担当教員による、学生への改善・向上の目標のフィードバック

担当教員は、**学生に改善・向上の目標のフィードバック**を行う。

4) 評価の高い教員による学科 FD

学科で評価の高い教員は**学科 FD**を担当。**授業マインドやスキル**を共有する。

⑤ その他

シラバスの整備、アクティブラーニングの推進、GPA 制度の整備、学修成果の把握の充実、教育評価制度の整備、教育改革の教員・組織への財政的支援、大学ポータル更新、入学者の追跡調査と選抜方法の改善、ポリシーを踏まえた教育の PDCA も、教育の質的転換を契機とする取組。

③ 学修時間の実態及び学修行動の把握と教育課程編成方針

本学では、2014 年度より、全学生を対象に学修時間の実態と学修行動を把握している。その際、項目や選択肢は、私立大学の平均との比較ができるように、**学生生活支援機構の学生生活調査を踏まえて作成**している。

学生エンゲージメント（卒業後の幸福感に影響する要因）の知見によると、**経験的な深い学び：インターンシップや仕事・正課外活動・プロジェクト**と**情緒的サポート：学びの刺激・励まし・気にかけてくれる教員**が重要である。

本学の学生調査と卒業生調査でも、**部活サークル活動とボランティア活動**が学士力の修得や卒業後にも役立っていることが明らかになった。

そこで、**教学マネジメントで、ブックリーディング、部活サークル活動、ボランティア活動、インターンシップ、プロジェクトを促すカリキュラムに見直す方針を決定**し、取り組んだ。今後、その検証も行う。

【項目】「①授業」「②授業の予習・復習・課題」「③授業・予習・復習・課題以外の学習」「④部活・サークル活動」「⑤ボランティア活動」「⑥新聞やインターネット上のニュースサイト等で時事問題・社会問題・地域問題等の新しい情報のチェック」「⑦アルバイト・仕事」「⑧専門教育以外のキャリア形成活動」。ただし、⑧は「就職活動」を拡大、⑤⑥は本学の特色とする取組。通信教育部は①～③の項目。

④ FD・SD 活動

LMS 活用で **FD の出欠管理と資料共有**。全学 FD は**毎回 eラーニング化**。

1) 全学 FD と学科等 FD、学外 FD、SD

2016 年度は、①教育、②研究、③社会貢献、④大学運営の領域で計 12 項目の全学 FD を開催している。学科等 FD は 44 項目のテーマで学科等ごとに実施している。学外 FD として、**東北地区 FD 拠点校の FD**を案内し、参加を促している。SD は学内外の講師によって 8 回実施している。

2) 教員相互の授業参観・授業聴講

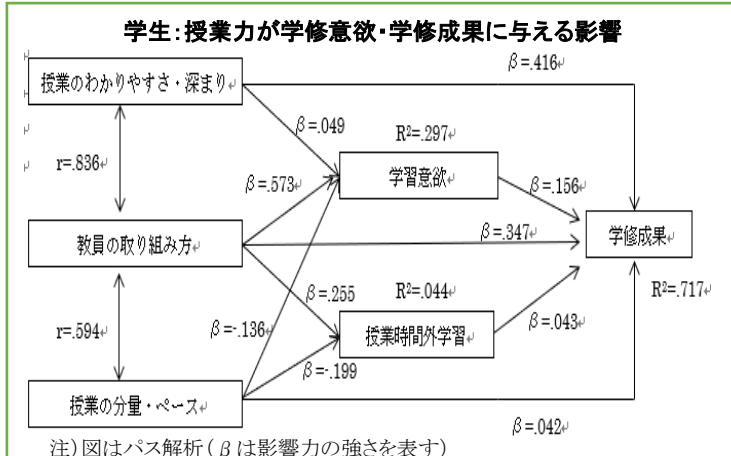
個別実施と学科の組織的取組（期間・授業の設定、意見交換など）を行う。

3) 各種調査・学修成果の把握・各種検証の結果と課題の報告

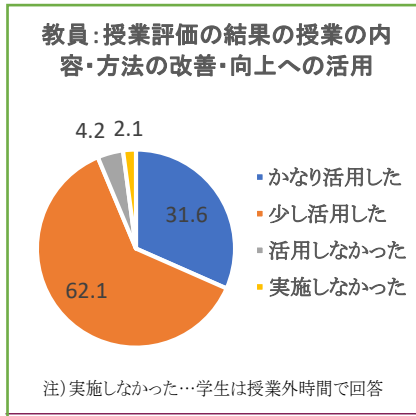
次ページの「取組を進展させた要素等」を参照。

教育の質的転換を契機とする取組により生じた変化と成果

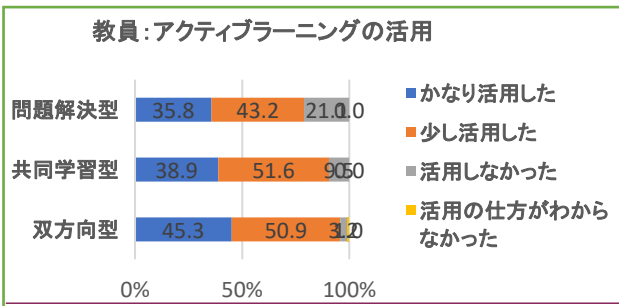
教員の意識：不満や抵抗も生じたが、その声に耳を傾け、気持ちに共感し、価値観を尊重し、負担に配慮するなかで、取組により学生の成長や満足が高まるという理解と認識が深まった。また、調査と収集情報に基づいて改善し、地域の顕在的・潜在的ニーズも踏まえた、本学らしい教育の実践を意識するようになった。
教育活動：全教員がFDに参加、FDを活用して教育、研究、大学運営の改善・向上に取り組むようになった。ポリシーを踏まえた教育課程編成に整備された。
学生への教育効果：学生は本学での学びに満足と成長を実感していることが明らかになった。初年次教育の改善により学士力の達成度が伸びた(数量的スキルなど)。



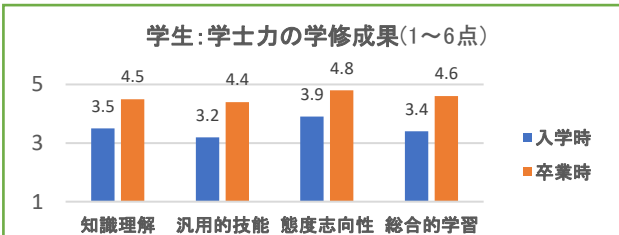
授業評価データの分析により、教員の取り組み方が学生の学習意欲と学修成果に大きく影響していることが明らかになった。それを踏まえ、教員は授業の改善・向上の重要性を認識し、取り組むようになった(2015年度)。



FDアンケートにより、ほとんどの教員が授業評価の結果を授業の内容・方法の改善・向上に活用していることが明らかになった(2016年度)。



FDアンケートにより、ほとんどの教員が講義においてアクティブラーニングを行っていることが明らかになった(2016年度)。

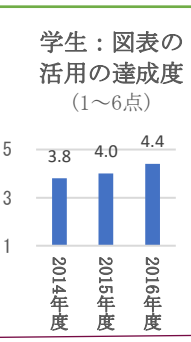


学修ポートフォリオの経年変化により、高い学修成果を達成していることが明らかになった(2016年度)。

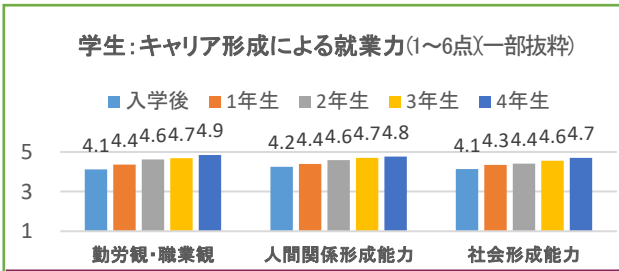
学生：授業評価結果(1~4点)

項目	2014年度	2015年度	2016年度
II. 自身の取り組み方	2.93	3.19	3.32
III. 授業への教員の取り組み方	3.28	3.33	3.40
IV. 授業について	3.76	3.81	3.82
V. この授業を受けた結果	3.43	3.34	3.28

授業評価により、授業への取り組み方、授業の分量・ペース等、授業における学修成果、満足度についても、高い評価であることが明らかになった(2016年度後期)。



学修活動アンケートにより、初年次の図表の活用が改善した。



学修ポートフォリオの学年比較により、就業力が着実に身に付いていることが明らかになった(2016年度)。

今後の展望、取組を進展させた要素

■今後の展望

- ①学外の意見（企業、地元産業界、業界別団体、地方自治体、専門職の職能団体、高等学校、高大接続関係団体及び卒業生など）を広く聴取するとともに内容を取り入れながら3ポリシーに照らした取組及び3ポリシーそのものの再確認と見直しに全学的に取り組んでいく。そして、**地域での学びと地域貢献・信頼**を深めていく。
- ②学修時間の実態及び学修行動の把握を踏まえた全学的なカリキュラムの見直しを、3ポリシーとの整合性を図りつつ、各学科のカリキュラムに関連づけて位置づける作業を行う（2019年度カリキュラムから実施）。そして、全学的に**実践を通した学びと大社接続**を拡充・深化させる。

■取組を進展させた要素

①部長学科長会議（教学マネジメント）

学長・副学長・研究科/学部/学科/部局の長の教職員より構成され、原則として月1回の開催により、**教育改革・質的転換や教育課程編成に関する全学的な方針の決定を迅速に行う。**

②内部質保証委員会

大学・大学院等の設置基準の遵守、教育、研究、社会貢献、大学経営を含む全ての諸活動において、**全学的な自己点検評価体制（PDCAサイクル）を整備し、全ての部局が自主的かつ自律的に点検・評価及び改善・改革を行うように、その活動の活性化・実質化を図る。**

③IRセンター

経営情報分析室と教育情報分析室を設置。**FD委員会と緊密に連携。**

- 主に次の取組を行う。（教育は**ゼミ教員と調査チームの協力**が大きい）
- 1) **経営/教育の情報の調査・分析とそれに基づく改善の提案**
- 2) **大学の経営/教育の情報の収集とそれに基づく改善の提案**
- 3) **ステークホルダー**（大学に関係する人や組織：学生、保護者、教職員、近隣地域住民、ボランティア・実習・インターンシップ・就職・進学・留学先の施設・病院・学校・企業・自治体・NPO・大学等、地域社会など）への**情報提供・公開の提案**（特に、FD委員を通じて全教員に共有）
- 次の手続きにより**PDCAと教育開発（イノベーション）を着実に推進**する。
- ①部長学科長会議に、**調査の分析と収集情報**（他大学の取組例や文部科学省等の公表資料、大学教育に関する報道など）の**報告と提案**を行う。
- ②（PDCAの改善の場合）内部質保証委員会に、**点検報告書**を提出する。
- ③内部質保証委員会は、関係部署に改善を依頼し、**改善検討報告書と改善完了報告書**の提出を求める。
- その他
- 1) アンケート等、授業評価、学修成果の把握に関する**実施要項を策定**。
- 2) Web学修ポートフォリオを援用した学修成果の把握は**ゼミ時間で実施**。（学士力と学科の身に付けるべき資質・能力についてループリック形式選択肢で本人の値と学科の平均値のチャート表示と経年グラフ表示）
- 3) 「学生のためになる」「苦情はチャンス」「まづ一歩踏み出す」「本学らしさ」

WebでのIR公表

- ▶ 学生アンケート
- ▶ 教員アンケート
- ▶ 卒業生アンケート
- ▶ 授業評価
- ▶ GPA
- ▶ 追跡調査
- ▶ 中退防止の検証
- ▶ 志願者動向分析
- ▶ 初年次教育の検証
- ▶ キャリア教育の検証
- ▶ 学修成果の把握
- ▶ 3つのポリシーに照らした取組の適切性の検証

FD 掲示板(情報共有)

タイトル
【報道】 地方大学向け交付金新設、政府が地方創生策...
【東北大学FD】 困難な状況で必要とされるリーダ...
【ベネッセ】 中小規模大学のIR事例からのヒント...
【スポーツ庁】 大学スポーツの価値の向上に向けて
【文科省】 今後の高等教育の視座像の提示に向けて

④FD委員会

各学科/各研究科専攻/関係部署等のFD委員（教職員）で構成。教員の教育能力等資質向上を**組織的かつ多面的に支援**することを目的としている。

●主に次の取組を行う。（各学科の**FD委員の協力**が大きい）

- 1) **教育能力向上・教育改善に関する情報の共有**（FDのWebページとLMSのFDコースでFD委員と教職員に情報共有）
 - 2) **研修会の開催**（原則として全学的に月に1回開催、学科等で学期毎に1回以上開催、教育・研究・社会貢献・大学運営の4領域、行動変容ステージモデル（無関心期→関心期→準備期→実行期→維持期）も考慮、事例や実践例重視で活用促進）
 - 3) **授業内容・方法の改善・向上**（授業評価・授業参観の推進、学生意見の聴取、高い授業評価の教員による学科FD企画）
 - 4) **各種調査・各種検証等の統括**（学科教員への協力依頼、学生アンケートの要望に対する学科回答（コメント）による改善推進、学科の身に付けるべき資質・能力に関する学修成果及び学科の3ポリシーに照らした取組の検証と改善推進など）
- 次の事項に関して、教員への周知・認識共有やマニュアル作成、研修会担当などによる**連携支援**を行う。教育等の改善、教育情報分析、厳格かつ適正な成績評価、ICTの教育活用とeラーニング支援、教育開発、教員個人の自己点検・評価、アカデミック・ポートフォリオ、学科等が行う学修成果の把握・評価、職員の職能開発・資質向上など。
- 学科長のもと**学科内FD委員を組織**し、学科FDを分担する。

●その他

- 1) FDセミナー、授業参観に関する**実施要項を策定**。
- 2) 教員対象の**FDアンケートを毎年実施**。教員の**教育改革・質的転換への取組状況を把握**し、FDの**改善・向上**に取り組む。
- 3) 「学生のために（成長と満足）」「小さな種を蒔く」「情報を集め、長い目で見ると（飛耳長目）」を共有して取り組む。